



SDM-JAPAN 2021年度 年間報告書

一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク

Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION

目次

- 1 2021年度の活動と今後の展望

- 2 実践的ファシリテーション
(PFT) 研修事業
 - (1)意思決定支援従事者養成研修
 - (2)PFT実践:全体の概要
 - 大分県の実践報告
 - 神奈川県の実践報告
 - (3)フォローアップと評価

- 3 トーキングマット (TM) 普及啓発事業
 - (1)日本語版TM開発チーム検討会
 - (2)トーキングマット認定トレーナー養成研修
 - (3)トーキングマット基礎研修
 - (4)実践者のひろば (フォローアップ) 研修

4 リスクのとらえ直し（PRT）研修事業

- (1)PRTプログラム検討会
- (2)PRTプログラム撮影準備会
- (3)動画撮影、編集
- (4)動画観賞会・研修準備会

5 組織強化事業

- (1)Web上の研修動画コンテンツの作成
- (2) 賛助会員向けポータルサイトの作成
- (3)運営会議等の開催

6 神奈川県事業

- 出前講座（ガイドライン研修）
（アドバンス）
（専門基礎）

7 その他

- (1)クラウドファンディング（日本財団外）
及びトーキングマット普及活動
- (2)子ども・青年との対話フルセット翻訳
プロジェクト

8 謝辞

1 2021年度の活動と 今後の展望



代表 名川 勝 Masaru Nagawa

2021年度については、これまでと同様に多くを日本財団からの事業助成により実施されているが、他にも神奈川県からの事業委託、またトーキングマット関連事業など、わずかながらも収益の多様化が図られてきたことが、法人としては大きな変化と言えるかもしれない。それは単に事業の広がりを意味するというよりも、事業が研修プログラム開発のための調査や検討から、少しずつ実施とその展開に移行しつつあることとも関連している。

例えば「実践的ファシリテーション（PFT）」は外部の連携する事業所とともに現場での実施を試み始めている。「トーキングマット」をみれば、国内トレーナーを増やした成果に基づき、昨年まで以上の研修を実施している。また「リスクの捉え直し（PRT）」についてはこれまでの検討からさらに日本版の研修用動画の作成に進んだ。私たちが企図していた日本版の意思決定支援研修のプログラム体系はまだ改訂を続けていく必要があるにせよ、実施のためのメニューが示せるようになってきた。ただし新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、活動がかなり制限されてしまった影響は否めず、もう少し時間をかけて取り組んでいく必要がある。

次年度については、このような活動をさらに進め、私たちの考える研修プログラムの質を高めるとともに、活動の場をほかにも求めていくことでさらなる展開をすることが必要であると考え。ひとつには、地域あるいは実施組織の面で広げることである。幸い、複数の法人あるいは自治体から連携の提案をいただいているので、丁寧に取り組んでいくことで活動の場を拡大していきたい。もうひとつは媒体としての広がりである。私たちはすべての構成員が本業を別に持ちつつこの事業にも関わっているという、いわば兼業体制の中で活動している。そのためどうしても時間的・人的に十分なリソースを割くことができない苦しさがある。そこで次年度はオンラインコンテンツの開発にも目を向け、より多様なかたちで私たちの活動成果を提供できるようにするための手立てをつくっていききたい。

加えて以前から気になっていたことについても取り組みを進めたいと考えている。すなわち、言語的コミュニケーションの困難な人にとっての意思決定支援のあり方についても考えていきたい。これまでも顧慮の必要性は自覚しつつも、まずは基本的なプログラム構築を優先させてきたところであったが、ある程度の方向性が見えてきたところから、検討に着手したい。

以上が2021年度の事業の振り返りと、2022年度への展望である。

なお日本財団助成による事業分については、新型コロナウイルスによる事業延長などが行われているため、事業によっては2022年度に実施している活動も含まれていることをご了承いただきたい。すなわち今年度は2021年度事業助成予算による事業と2022年度事業助成予算による事業が並行して行われていた。うち、本報告書では、2021年度事業助成予算によって賄われている部分を抽出して記載しているため、ご了承いただくと幸いです。



2 実践的ファシリテーション (PFT) 研修事業

執筆担当：川田・森地・長島

(1)意思決定支援従事者養成研修 (総合+PFT+TM+PRT)

- ①特定非営利活動法人竹の里人：コロナのため延期
- ②社会福祉法人清流会：
 - ・意思決定支援ガイドライン研修 (4/30 10:00-17:00)
 - ・リスクのとらえなおし研修 (5/6 10:00-17:00)
 - ・PSF研修 (5/13・5/14・5/19・5/20・5/24・6/3・6/9
いずれも13:00~17:00)
 - ・トーキングマット研修 (6/8・6/22 13:00-17:00)



全国で先駆けて
神奈川県、大分県の二拠点で実践的地域開発モデル
PFTパイロット事業が始動しました。

(2)PFT実践

大分県の社会福祉法人清流会にて、4～6月に開催した上記(1)意思決定支援従事者養成研修の参加者からファシリテーター1名が決定し、PSF実践に入った。

第1段階：リクルートミーティング

計4回実施（7/26・8/6・8/23・8/30）

法人が実施している事業所の利用者3名に対し、リクルートミーティングを行い、最終的に意思決定者1名が選出された。

第2段階：合意書作成ミーティング

計2回実施（10/18・11/22）

リクルートミーティングで語られた意思決定者の希望についてさらに具体的に聞き、合意書を作成した。また、本人の希望に基づいてサポーターを選定し、以後、ミーティングにも毎回参加されるようになった。

第3段階：チーム形成ミーティング

計4回（11/29・12/17・12/20・1/24）

意思決定者の希望の中から、特に実践したいと希望が強かった「お好み焼きパーティー」の実施に向けて、サポーターやゲスト（お好み焼きの作り方を知っている事業所職員）をミーティングに招き、パーティーを計画して実行することができた。

2月以降、新型コロナウイルス感染状況に伴い実践が中断された。2022年4月以降に再開し、

第4段階 ファシリテーターの撤退と委譲へ進む予定である。

【コーチ、トレーナーの気づき】

ファシリテーターは、養成研修での学びを活かし、意思決定者が自らの希望を形づくり表明するためのファシリテーションを丁寧に実践できていた。

チーム形成にあたって、サポーターやチームメンバーがサービス提供事業所の関係者に限定されており、地域開発モデルとして機能していくためにも、今後は地域の人々や資源とつながっていくための方策を探索していきたい。

(3)フォローアップと評価

社会福祉法人清流会：

第1回 意思決定者選出時：10月4日

意思決定者、ファシリテーターへのアンケート調査

第2回 合意書完成時：11月29日

意思決定者、ファシリテーターへのアンケート調査

第3回は、実践の終結時に、以下の調査を予定している。

- ・意思決定者へ：アンケート調査・インタビュー調査
- ・ファシリテーターへ：アンケート調査・インタビュー調査
- ・サポーターへ：インタビュー調査



意思決定者とのミーティングや活動の様子

3 トーキングマット(TM) 普及啓発事業

担当：水島・小杉・名川

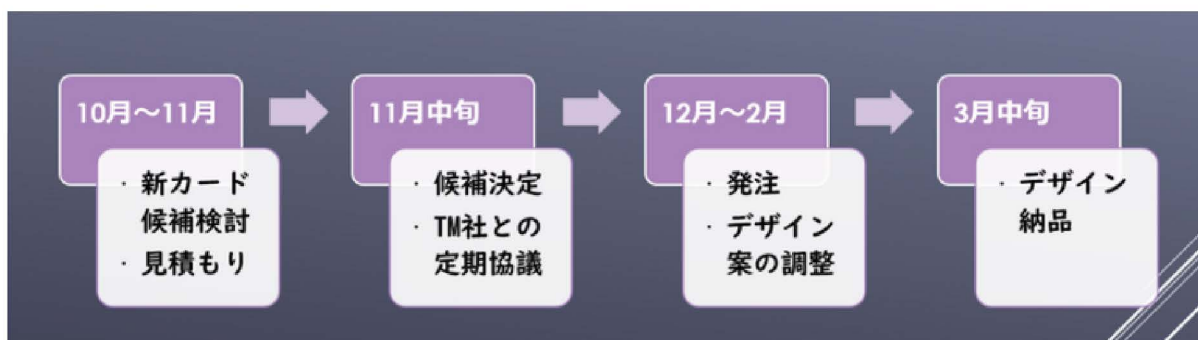
(1)日本語版TM開発チーム検討会

執筆担当：小杉

日本文化を反映したシンボル（絵）カードを作成し、トーキングマットのフレームワークを用いて会話を促進することを目的として日本語版のトーキングマット開発に着手した。

まず、2022年9月2日にSDM-Japanの意向を英国のTM社に伝達し了承を得た後、初回オンライン・ミーティングを10月1日に開催し、翻訳チーム5名の参加のもと開発のタイムラインを決めた。

タイムライン



ミーティング開催日程と人数

2022年

10月22日（4名）、11月 5日（8名）

11月13日（5名）、11月19日（7名）

12月 4日（4名）、12月18日（6名）

12月18日のミーティングにて、開発する20枚のカードの内容が決定された。同日トーキングマット社へ発注した。これまでシンボルのデザインを担当してきたアダム・マーフィー氏が日本語版新カードも同様にデザインし、SDM-Japanのフィードバックを繰り返し、3月中に納品される。

2023年1月18日に新カードのラフスケッチが提案されたのを踏まえ、2月5日複数のスケッチの中からテーマに最適なデザインの選択に向け協議する。

ラフスケッチ一覧



(2) トーキングマット認定トレーナー養成研修

執筆担当：水島

2021年8月17日～20日午後4時～8時15分の4日間、当法人メンバーで基礎研修修了者である名川、本間、福崎、延原、市川、玉木の6名が、オンラインかつ通訳を通じて、トーキングマット社公認の基礎研修トレーナーとなるための研修を受講した。講師は、英国トーキングマット社代表ロイス・キャメロン氏及び同社社員ニッキー氏であった。

当該研修では、研修受講者自身が実際にトーキングマットを活用して行った3つの事例を報告するとともに、うち1事例については、ビデオを撮影し、受講者及び講師よりフィードバックを受けた。さらに、受講者同士がペアとなって、トーキングマット基礎研修のスライドを用いて、講師役を務めた。これらのパフォーマンスを講師が総合評価し、合格した者がトレーナーとなることができるのである。

本研修を通じて6名のトレーナーが新たに誕生し、日本国内では第1号のトレーナーである当法人副代表の水島を加え、7名のトレーナー体制を構築することができた。これにより、従来行っていたトーキングマット基礎研修の回数を大幅に増加させることができ、かつ、トレーナー同士の交流を通じて、日本国内におけるトーキングマットの実践をさらに広げていくことが期待される。

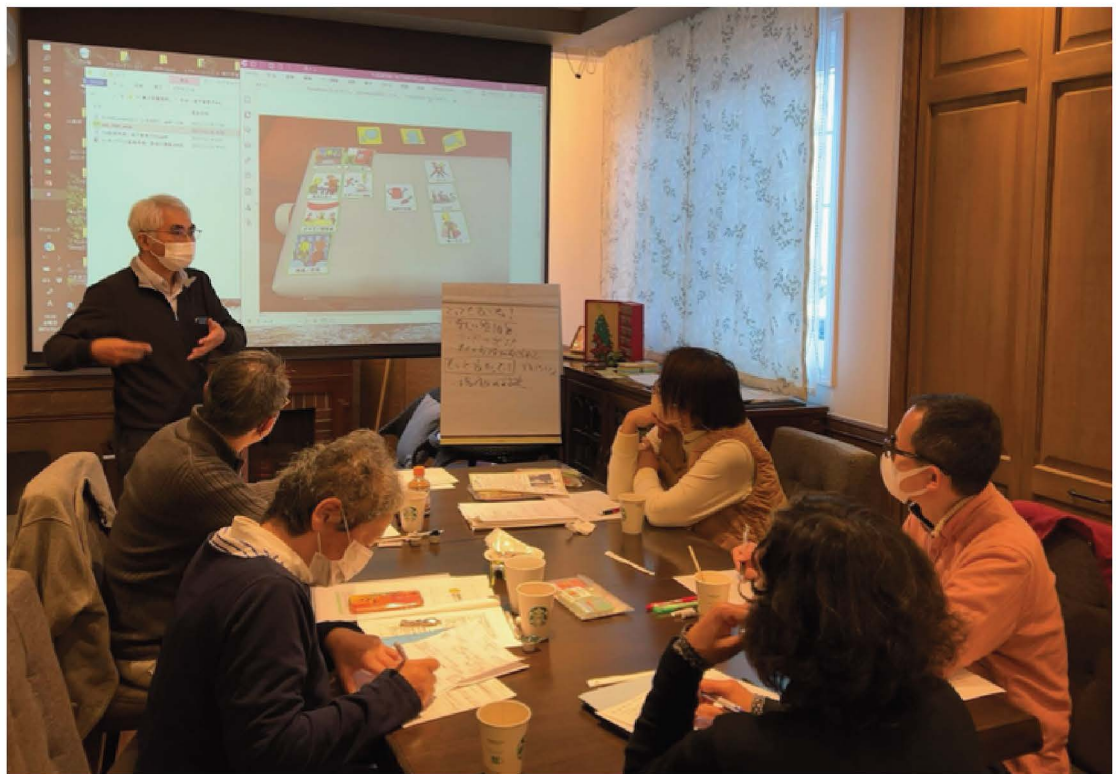


オンライントレーナー研修終了後の様子

(3) トーキングマット基礎研修

執筆担当：水島・延原

トーキングマット社認定基礎研修は、1日コースについては、2021年6月1日、12月5日、2022年3月19日の計3回、2日半日コースについては、6月8日・6月22日、10月16日・11月6日、11月20日・12月18日、2022年1月11日・2月15日、1月16日・2月12日、2月19日・3月5日の計6回、合計9回実施され、57名の修了生を輩出した。



トーキングマット基礎研修の様子

(4)実践のひろば（フォローアップ）研修

執筆担当：水島・延原

トーキングマット基礎研修修了者の実践力を高めるため、基礎研修修了者を対象に、オンラインでの実践報告及びフィードバックを行うための「実践のひろば」を開発し、そのモデル研修を2021年11月28日、2022年3月20日に実施し、合計10名の参加を得た。

本研修では、基礎研修では十分な時間をかけて行うことが難しかった実践動画のフィードバックを丁寧に行うとともに、デジタルトーキングマットを試行的に実施したり、修了生同士の交流・質問コーナーを設けるなど、より基礎研修受講者との距離が近いセッションを中心に展開した。



2021年度トーキングマット「実践のひろば」（基礎研修修了者対象）

基本情報を編集

2022年3月20日（日）10:00 - 12:00
オンライン

実践のひろばオンライン申し込みサイト

(5) トーキングマット研究会

執筆担当：名川・市川・延原

研究会は、2021年4月13日、5月11日、6月8日、7月6日、7月22日、8月10日、2022年3月11日の日程にオンラインで開催した。メンバーは法人内の理事、コアメンバー7名程度であった。

テーマとしては以下のことを主たるテーマとした。

- ・ トーキングマットに関する研究のレビュー
- ・ EFFCなどによる評価のあり方について
- ・ 事例検討
- ・ AACとの関連について
- ・ その他

うち、成果の一部については、以下の学会で発表を行った。

- 名川勝・延原稚枝・水島俊彦・本間奈美・於保真理(2021)意思決定支援ツール「トーキングマット」記録用紙の開発。日本特殊教育学会第59回大会，O-R812.

Murphy and Cameron (2008)、Murphy et al.(2013)、トーキングマット基礎研修資料等を踏まえ、記録用紙(試作版)を開発した。これを試用し、使用者の意見を取り入れて修正した。

- 名川勝・延原稚枝・水島俊彦・本間奈美・於保真理・市川勝(2021) トーキングマットとは何かーその実践と適用可能性ー 日本発達障害学会第56回大会自主企画シンポジウム2

トーキングマット (Talking Mats) は英国・スコットランドで研究・開発されたコミュニケーションツールのひとつであるが、いわゆる機能的コミュニケーションを補助するものではなく、また言葉の有無にかかわらず使用される。むしろ意思決定支援や意思表明権保障を支援するツールであるとも言われる。自主シンポジウムでは、それぞれの立場から実践での使用例について提出いただくとともに、適用可能性や課題を議論した。

次年度については、引き続きEFFCなどによる評価尺度の検討、事例集の検討などを進める予定である。

4 リスクのとらえ直し (PRT)研修事業

執筆担当：名川・延原

(1)PRTプログラム検討会

日本語版にするにあたり、豪州にてプログラムを構成しているBigby,C教授に日本らしいスキットを作ること等を求められた。

そこで、まず日本のコンテクストに則したスキットのシナリオ、日本における研修枠組みと研修目的について検討を行った。

表 PRTシナリオ・プログラム検討会

日程	内容 /場所	参加者
2021年4月14日 19:00-21:00	シナリオ検討会 Zoom	名川・延原
2021年6月4日 10:00-18:00	研修枠組み、研修目的 等に関する検討会 ふれあい貸し会議室 (千葉県柏市)	名川・延原
2021年9月16日 10:00-21:00	動画シナリオ検討 Kashi-work (千葉県柏市)	名川・延原

(2)動画撮影、編集

撮影・編集を委託する業者については4者からの見積書の提出を受けた。価格ならびに弊法人の企画にもっとも合致した内容であることから総合的に考慮し、1社を選定し理事会に諮った。2021年度第2回理事会（5月11日開催）において審議のうえ、原案の1社について選定することが承認された。

その後、選定された1社との契約を行うとともに、下記の表に示す通り打ち合わせを行った。

さらに新潟県佐渡市を主たるロケ地として撮影計画を進めるも、新型コロナウイルスの影響により実施困難ということが判明し、計画を修正、改めて大分県宇佐市にある社会福祉法人を主たるロケ地とすることで調整を進めた。

撮影は2021年12月2日～3日の2日間で実施した。その後に業者による編集作業を経て、動画は2022年3月19日に納品された。関連する活動ならびに打合せを以下に示す。



PRT動画撮影の様子

表 動画撮影・編集等に関する打ち合わせ等一覧

日程	内容・場所	参加者
2021年5月11日	動画制作会社選定 <詳細は5月11日令和3年度 第2回 理事会 資料参照>	理事会参加者
2021年5月22日 16:30-17:00	動画制作会社 今出さんとの顔合わせ	
2021年6月25日 19:30-21:00	撮影に関する打ち合わせ(1) Zoom	今出、名川、福崎、於保、 延原
2021年7月26日 19:30-20:30	撮影に関する打ち合わせ(2) Zoom	今出、名川、福崎、 本間、延原
2021年8月24日 19:30-20:30	撮影に関する打ち合わせ(3) Zoom	今出、福崎、本間、 於保、延原
2021年9月18日 19:30-21:00	撮影に関する打ち合わせ(4) Zoom	今出、名川、福崎、 延原
2021年10月5日 19:30-21:00	撮影に関する打ち合わせ(5) Zoom	今出、名川、福崎、 延原
2021年10月18日 17:10-18:30	撮影に関する打ち合わせ(6) 清流会会議室(大分県宇佐市)、及び Zoom	佐藤、今出、名川、福崎、 延原
2021年11月12日 18:30~	撮影に関する打ち合わせ(7) Zoom	佐藤、今出、名川、福崎、 延原
2021年11月17日 15:00~17:00	模擬撮影 清流会 会場(大分県宇佐市)	佐藤、今出、長尾、尾上
2021年11月26日 15:00~	撮影に関する打ち合わせ(8) Zoom	佐藤、今出、名川、福崎、 延原
2021年12月1日 15:00~18:00	撮影に関する読み合わせ 清流会 会議室(大分県宇佐市)	佐藤、今出、名川、福崎、 延原
2021年12月2日~ 12月3日 終日	撮影 清流会(大分県宇佐市)	役者、佐藤、今出、尾上、 長尾、名川、福崎、延原
2021年12月21日	編集動画 ver. 1到着	
2022年1月25日	編集動画 ver. 2到着	
2022年2月5日 20:00~	編集動画に関する打ち合わせ(1)	今出、名川、延原
2022年3月19日	動画納品	

(3)研修準備会

(1),(2)を踏まえ、PRT研修プログラム試行版の開発、及びその効果測定に関する検討を行った。

表 研修準備会の日程・内容

日程	内容・場所	参加者
2022年4月4日	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度事業に関する年間スケジュールの検討、PRT研修プログラム(試行版)の効果を測定する研究に関する打ち合わせ 筑波大学(茨城県つくば市) 	名川、延原
2022年5月19日	<ul style="list-style-type: none"> 日本版動画を含むプログラムの構成等の検討 PRT研修プログラム(試行版)の効果を測定する研究に関する打ち合わせ 筑波大学(茨城県つくば市) 	名川、延原
2022年6月3日	<ul style="list-style-type: none"> 日本版動画を含むプログラムの構成等の検討 カリキュラム表(予定) 目標(案)作成 ふれあい貸し会議室 柏A(千葉県柏市) 	名川、延原
2022年6月7日	<ul style="list-style-type: none"> 日本版動画を含むプログラムの構成、カリキュラムの修正 研修実施の効果測定に関する研究に関する研究倫理書類作成 ソフィア会議室(千葉県柏市) 	名川、延原
2022年10月18日	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム検討 ふれあい貸し会議室 柏A(千葉県柏市) 	名川、延原
2022年11月6日	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム検討 ワンコイン会議室秋葉原(東京都) 	名川、延原
2022年11月12日	<ul style="list-style-type: none"> 研修資料作成 ふれあい貸し会議室 柏C(千葉県柏市) 	名川、延原



PRT研修プログラム（試行版）の様子

(4)PRT研修プログラム(試行版)の実施と修正検討

PRT研修プログラム試行版で開発したプログラムを試行した。

- プログラムの試行は、かながわ共同会の職員20名(管理職5名、現場職員15名)を対象に、芹が谷やまゆり園(神奈川県横浜市)において実施した。
- 実施した内容と日程については、以下の表に示す通りである。
- 実施にあたっては、その開始前・終了後に、リスクマネジメントに関する語句の理解、並びにリスクマネジメントに関する認識等を問う質問紙を実施するとともに、代表メンバー3名から研修受講に関する感想コメントを得た。
- それらを基に、リスクのとらえなおし研修(試行版)修正についての検討を行い、リスクのとらえなおし研修(日本版)は概ね完成した。

表 リスクのとらえなおし研修実施日程

日程	内容	講師
2022年11月24日	• リスクのとらえなおし研修(日本版)の実施 Module 1	名川、延原、川田、於保、野口
2022年12月8日	• リスクのとらえなおし研修(日本版)の実施 Module 2	名川、延原、川田、於保
2022年12月22日	• リスクのとらえなおし研修(日本版)の実施 Module 3	名川、延原、於保
2022年12月23日	• リスクのとらえなおし研修(日本版)の Module 1~3 修正検討(1)	名川、延原
2023年 1月19日	• リスクのとらえなおし研修(日本版)の実施 Module 4	名川、延原、川田、於保
2023年 1月22日	• リスクのとらえなおし研修(日本版) Module 4 修正検討(2)	名川、延原

5 組織体制の強化

執筆担当：水島

(1) Web上の研修動画コンテンツの作成

賛助会員及び意思決定支援に関心を持ちうる潜在層（支援者、専門職、家族等）に向けた動画コンテンツを作成するため、Web研修用スタジオ（携行型機材を含む）に係る機材調達及びモデル動画の作成を行った。今後は、当該機材を活用して、当法人の活動及び意思決定支援の実践場면을撮影・編集し、教材として活用することを検討したい。

(2) 賛助会員向けポータルサイトの作成

上記（1）に関連して、当法人の賛助会員等が限定的に閲覧可能なWebサイトの構築を図るために、WordPressを用いたWebサイトへの移行に向けた検討を行い、実行した。

今後は、Webコンテンツを一般向けのものと同様に賛助会員等向けのものに分けて作成し、後者については有償とすることによって、当法人の組織基盤を強化することに務めたい。

(3) 運営会議等の開催

以下のとおり、2021年度は原則として月一回開催した。新型コロナウイルス蔓延防止対策の観点から、主としてリモートでの実施となった。

2021年5月11日、22日、6月1日、19日、7月6日、8月10日、9月7日、10月12日、28日、12月9日、2022年1月14日、2月1日、3月1日

6 神奈川県事業

執筆担当：名川

神奈川県が公募する「意思決定支援出前講座事業委託」に応募し採択されたため、同事業を実施した。

意思決定支援ガイドライン研修

- 第1回 2021年9月30日(木) 9:30~17:00 63名
- 第2回 2021年10月21日(木) 9:30~17:00 64名
- 第3回 2021年11月11日(木) 9:30~17:00 68名
- 第4回 2021年12月14日(火) 9:30~17:00 60名

意思決定支援ガイドライン研修(アドバンス)

- 2021年10月7日(木) 10:00~17:00 28名

神奈川県意思決定支援実践に向けた専門研修(基礎) [連続]

- 第1回 2021年10月7日(木) 10:00~17:00
- 第2回 2021年11月1日(月) 10:00~17:00
- 第3回 2021年12月7日(火) 10:00~17:00
- 第4回 2022年1月18日(火) 10:00~17:00
- 第5回 2022年2月8日(火) 10:00~17:00

5日間について、10事業所17名が参加した。

プログラムや実施後の評価など詳細については、別途作成した事業報告書を参照されたい。



7 その他

(1)クラウドファンディング（日本財団外）及び トーキングマット普及活動

担当：玉木・福崎

「揺れる心を見える化する”トーキングマット”日本語版を全部作りたい！」というテーマで、3月21日から4月30日まで、3回目のクラウドファンディングを行った。最初の目標額は100万円で、期間前半で達成。

その後、ネクストゴール180万円に挑戦し、最終的には183万円の支援を受けて終了することができた。700人が閲覧し、支援者は41人で、支援率は5%という結果だった。閲覧数は、クラウドファンディング第1回は2000人、第2回は1200人、3回目の今回は700人。しかし3回とも支援率は5～6%で変わらなかった。前回と違うところは、リターンとして新しいカードとともに、デジタルトーキングマットの利用権を加えたことだった。

今後、トーキンマットの基礎研修などで実践で使用できる人たちを増やし、多くの人たちにトーキンマットを利用してもらい、「意思決定支援」への関心を深めてもらいたいと願っている。

(2)子ども・青年との対話フルセット翻訳プロジェクト

担当：小杉

トーキングマット社が販売している絵カードのフルセットには「健康とウェルビーイング」と「子ども・青年との対話」の2つがある。2020年度に翻訳した「健康とウェルビーイング」に続き、2021年度は「子ども・青年との対話」フルセットを翻訳した。

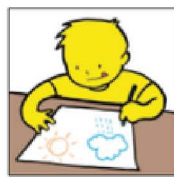
背景には、幼い頃から自分の意思が尊重され、周囲の大人が子ども本人の考えや価値観を尊重する環境を形成するきっかけとしてトーキングマットの枠組みが役立つとの思いがあった。また、そうした環境づくりが、大人になってからの意思決定の質に大きく影響すると考え、子ども・青少年版の翻訳に取り組んだ。

このフルセットには、発達段階に応じて3種類のセット【①幼年期（3歳から7歳）、②初等期（7歳から12歳まで）、中等期（13歳以上）】がある。翻訳にあたっては、各発達段階に応じた日本語表現に留意した。例えば、「かぞえる（幼年期）」、「算数（初等期）」、「算数（中等期）」である。

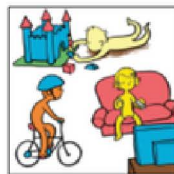
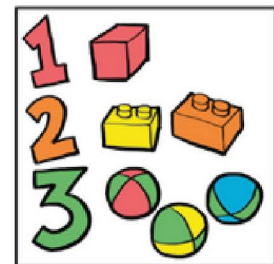
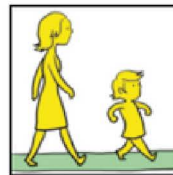
翻訳のための協議の開催日と参加者数（括弧内）は以下のとおり。

5月1日(8)、5月8日(7)、5月15日(7)、5月22日(8)、5月29日(8)、6月5日(7)、
6月12日(8)、6月19日(7)、6月26日(7)、7月5日(6)

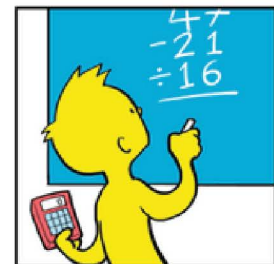
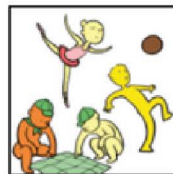
発達段階に応じて異なる概念と絵カード



幼年期
Early years



初等期
Primary



中等期
Secondary



8 謝辞

障害のあるなしにかかわらず、誰もが自信と誇りをもって、自分の思いを述べ、心からの希望に基づいて意思決定することができる社会を目指すSDM-Japanの理念及びプロジェクトに共感し、多岐に渡って多大なご支援をいただいた日本財団様をはじめ、それぞれのプロジェクトで研修や実践の指導またパートナー、参加者として関わってくださった様々な分野の方々に心からお礼を申し上げます。

私たちSDM-Japanのメンバーだけでは、なし得なかった多くのプロジェクトが、たくさんの温かい関係者の方々のご尽力で形になっていきました。意思決定支援という概念が、私たちの暮らす社会にとって少しずつではありますが以前より身近になってきていると実感しております。

微力ではありますが、私たちも試行錯誤しながら一人ひとりの暮らしを大事にする福祉の質の向上により邁進して参りますので、これからもどうぞご支援の程よろしくお願いいたします。

代表：名川 勝



連絡先

一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク
〒305-8577

茨城県つくば市天王台1-1-1筑波大学
名川勝 研究室気付
050-5534-4004

<https://sdm-japan.net/>
www.facebook.com/sdmjapan/
info@sdm-japan.net